



尊商会総会当番幹事 72期の皆さん



尊商会総会に出席の皆さん

左から土橋さん（43期）、澤山前会長（42期）、菅原さん（43期）、中村会長（41期）、原田さん（43期）、成沢さん（68期）



北海道新聞 6月3日

平成27年度 本部尊商会総会に出席して

東京尊商会会長
41期 中村みのり

6月25日（土）、本部尊商会総会がランドパーク小樽に於いて参加者240名余りで盛会に開催されました。5階会場の受付ロビーに

は、尊商会のハッピー姿の当番幹事72期の女子が元氣良く動きまわり、さすが本部総会の感がありました。総会は、大森会長のご挨拶で始まりましたが、すでに廃校のニュースが流れている中

での新山小学校長の祝辞には心情を吐露した重い言葉があり、当事者の我々には強く響きました。続いて地区尊商会会長代表で祝辞を述べる事になりましたが、廃校の件は言及せず尊

会存続についてはこれから同窓の絆も絆で結ばれることを希望して、最後に関東近郊会員の東京尊商会入会のお祝いと10月の総会参加のお誘いをいたしました。懇親会は札幌尊商会会長土田俊英氏の乾杯の音頭で始まり、アトラクションのゴスペルが心地よく響きわたり、会場が一体になりました。最後は緑灯会会長奥村泰吉氏の万歳三唱で閉会となりました。東京からは8名の参加者が

ありましたが、それぞれが期のテーブル席に着いていたので時々顔を合わせながらようやく最後に記念撮影で一同に会しました。総会に先立ち、本部尊商会27年度第1回役員会が開催され澤山前会長とご一緒に出席いたしました。

今回は通例の議題の他に懸案事項として、廃校の件がありました。すでに5、6年前から持ち上がっていた小樽工業との統合の話が続いている中、突然6月2日に両校の廃校と新設校を設けるニュースがながれ、同時に道教委からも学校に連絡が入ったよう、急な申し渡しに学校も尊商会もこれからの対応に苦慮していました。特に尊商会は、基本的には存続を考えるが、今までは事務局全てが校内に有ったので、移す場所、局員、学校林、等々1つ挙げても問題山積で、本部役員会が時間をかけて考えて行くことになりましたが、地区尊商会としても一緒に考えて行かなければならない大きな問題なので、ご意見などございましたら是非ご連絡下さるようお願い申し上げます。



麦笛

23号

2015年8月29日

発行

東京尊商会広報委員会

発行人

村井 健 (51期)

〒060-0801	29
〒060-0801	5
〒060-0801	071
〒060-0801	ul.

同窓の絆

「インターハイに出場」



42期卒
伊藤正紀

緑光寮誌発行のお話を機に、身の回りの整理を始めていたところ、半世紀以上前のものが出てきました。

私がインターハイに出場した「プロگرام」です。緑陵時代、3年間陸上部に籍をおいておりました。寮の先輩には2年上の中越さん、1年うえの小山さんがおられました。

今思えばたいした練習もしないのに、腹がすいてたまらず、寮の賄の大谷さんにこっそり頼んで、お握りをつくってもらったことがあります。

ご飯などめったに余ることなどないことなので、結局、数回しかチャンスがなかったのですが、そんな陰の努力？が実を結んでか、小樽地区大会（手宮グラウンド）で2年と3年の時に「やり投げ」で2連覇することが出来ました。特に3年生の時は大会新記録で優勝、全国大会を山口県下関市でインターハイ開催出場。

まだ新幹線のない時代に、

しかも8月真夏、小樽から本州の西の果てまで、まる2日間エアコンもない狭い3等車の堅い座席に座ったままでした。下関に着いたときはまるで「生きたこちしなない」状態でした。

参加競技は惨敗でしたが、試合後歩いて関門トンネルの中を通り、九州の地を踏んだ時は試合以上に大変感動したことを記憶しております。

引率していただいたのは、寺本先生（数学）でしたが、毎日三度の食事時、ご飯ではなく、「酒を食らつて」おられたのには驚かされました。（小樽緑陵高校 緑光寮文集「蜚雪の輩たち」より）

「東京五輪に思う」



39期卒
今 晃

昭和39年（1964年）10月、東京はオリンピックで沸いていた。私は1年半の療養生活を終えて再び早稲田に通っていた。昼間は、川崎・溝の口にある「静雅書道会」で月刊誌編集のアルバイトをし、近くの4畳半の部屋が住

まいだった。

夜の授業が終わり帰宅の電車に乗るのは10時頃。高田馬場から新宿、代々木を経て原宿にさしかかると、左の窓から遠くに国立競技場の聖火を見ることができた。

「オリンピックが始まっているんだ！」「俺には関係ないな……」オレンジ色の美しい炎にそんな感興しか湧かなかった。

やがて電車は渋谷に着き、私鉄の玉電に乗り換える、道玄坂を登り切つて池尻大橋まで長い下り坂になる。

「キツキツキツイ」。

奇怪な音を夜の街に響かせる度に、電車は前後に大きく揺れる。乗客も体を斜めに揺さぶられる。つり革を握る手に力が入る。脚も踏ん張る。

体も気持ちも斜めに揺れ、気持ち揺さぶられる。疲れた精神が揺さぶられる。

精神の緊張が切れたらどうなる？。一瞬の妄想が走る。ブレーキが外れたら電車は暴走脱線する。とすれば、俺の体も精神も木端微塵となる。

「それはそれでいいかもしれない」
車窓から見た聖火の美しさ



祝津海岸集合写真。小樽緑陵高校 緑光寮文集「蜚雪の輩たち」より

よりも、奇異な音を立てガタガタ下る電車の状態に疲れた精神がその頃苛立っていたのだ。

さて2020年の秋、東京は2回目のオリンピック開催都市に決まった。2度目のオリンピックは当初の不人気は過ぎて国民の大方は、支持している。名乗りを上げた石原元都知事は「独断専行」「暴走老人」などと揶揄されたが、オリンピック招聘への執念と努力は、国民と若者たちに大

きな夢を与えてくれた。オリンピックを見る眼にも、年月の経過は影を落とす。精神の気弱さを棚に上げ、事実を斜めに捉え、老いては精神の枯渇が事実を捻る。批判のあるところだ。

しかし2020年まであと5年、我々も80歳を超えた立派な老人になっている。その時まで生き延びて、若人の祭典を楽しむとしよう。

（小樽緑陵高校 緑光寮文集「蜚雪の輩たち」より）

「千の風になった」 弟・敏信に贈る手紙

39期卒 伊藤啓三

俺と敏とのつながりは、兄弟としてでなく、スキーをとおしてのつながりが切り離せないものと思う。

敏の高校時代、昭和35年1月 小樽での「北海道選手権大会で成年組も総ナメ」にしたという新聞の切り抜きがあり、二人の写真が写っている。当時小樽で全日本のオリンピック候補合宿があり、敏は前走でラップタイムを出して、注目されたことがあったな。

俺は、本当に誇らしく思ったものだ。スキーの手入れ、ワックスは俺がやってあげた。



ゴルフ場で、左から水島さん（43期）、兄の伊藤啓三さん（39期）、弟の故・伊藤敏信さん（43期）、義姉
▼当時の北海道新聞掲載記事

成年組と少年組で一緒に北海道の代表として、初めて出場した志賀高原でのスキー国体を思い出す。

もちろんその時も、俺が敏のスキーにもワックスを塗ってやり、敏は見事に少年組で優勝を飾ったが、俺は成年組で10位以内にも入れず、敏に「兄貴は、どうしたんだ」と言われたこともあったな。

敏は、早稲田大学に進み、全日本各種大会で活躍して、世界選手権大会・ユニバーシアード大会等に日本の代表として出場したときのことを、今でも思いだしている。おふくろ、兄弟達と心から応援していた。

平成16年7月11日におふくろの十三回忌で、小樽に来て会ったのが最後だと思っている。



その3カ月後、14日昼頃、俺は近くのゴルフ練習場で練習中に、突然左手の力が抜けて、クラブを握ることが出来なくなり、何度やり直しても駄目だった。

「これは、おかしい……」と思い、すぐ家に戻った。丁度香浪が家にいて「お父さんの言葉使いがおかしい」と、すぐ病院を手配して、病院に行き診療で「脳梗塞」と診断され、入院となった。

翌日の朝、祥子と香浪が病院に来て、すぐ祥子が俺の手を握り締めて「びっくりしないでね！ 気持ちをしっかりと持てね。」と言って、「敏が昨日午後2時ごろ、石川県の白山への登山中に心臓麻痺で死を告げられた」

あの時の俺の気持ちをどう表現したらいいだろうか。ベッドに横たわり、愕然となったことを思い出す。

祥子が医者、敏の葬儀への出席を聞いたが、「絶対ダメです」と言われた。

普段は、体に問題なく健康で、仲の良かった俺たち兄弟が「何故、同じ日にこのようなことになったんだろうか」と思ったものだ。

敏の顔を見に行くことも、葬儀に出席する

ことも出来ず、断腸の思いだった。せめて、四十九日には、お参りに行きたいと病院のトレーニング室で一生懸命にリハビリに励んだ。
「敏」それにしても、早すぎる旅立ちだったな。

（本文は、愛媛県西条市の「千の風になった……」を記念し町おこしプロジェクトの一環として手紙を募集、これに入選したそうです。伊藤啓三さんの、弟さんは小樽緑陵高校43期卒、在校中スキーで大活躍し、その後もスキー関係のお仕事についていたそうです）

小樽の写真



南樽市場の建物



新鮮な商品のイカ



小樽運河と観光案内小型船 6月28日



市場内売り場



お知らせ 今年の 東京尊商会総会は

平成27年10月17日
土曜日16:15より受付
下記ホテルで開催します

場所
ホテル東京ガーデンパレス
東京都文京区湯島
1-7-5

御茶ノ水駅下車
聖橋口より徒歩5分

東京尊商会平成27年度役員

職名	期	氏名
顧問	36	古山 茂
顧問	36	藤田 賢治
顧問	39	高橋 光雄
顧問	40	宮尾 玲子
顧問	41	星 観二
顧問	42	市川東紀宗
相談役	41	島 久雄
相談役	42	澤山 良一
会長	41	中村みのり
副会長	49	小野 政春

職名	期	氏名
副会長	49	田中 光隆
副会長	49	村松 次男
副会長	51	村井 健
監事	43	水島 睦夫
監事	43	土橋 弘幸
幹事長	46	谷澤 忠之
常任理事	43	原田登志子
常任理事	47	戸井 吾郎
常任理事	53	坂崎 登
常任理事	53	千葉 敏朗

職名	期	氏名
常任理事	68	成沢 桂
常任理事	69	井上 和弘
理事	46	矢嶋じん子
理事	46	倉重 敬子
理事	47	山田 幸雄
理事	49	須戸美代子
理事	51	田中 則夫
理事	55	大高 敏孝
事務局長	45	浜谷 哲男

事務局へのご連絡は 浜谷哲男 TEL (FAX)

会員の住所変更など、気軽に相談下さい。ご意見大歓迎！

編集後記

札幌在住のクラスの友人より、北海道新聞夕刊に「小樽商業高校」が「小樽工業高校」に統合される記事が掲載されている、ショックだ！というメールが届きました。

その彼とは卒業以来会ったことなく、小生の仕事の関係で札幌においてセミナーがあり、終了後レンタカーで一人小樽商業高校の母校へ。当時夏休みか？生徒さん少なく、小生寮生にて校庭から見た寮を見上げ、すでにマンシヨンの建物が変わって建っており、ジャンプ台、合宿所もなく、スポーツ大会で汗し、また冬は屋根の雪下ろしにふざけて投げ合ったり、寮のカレーライスを食したことなど思い出すと、自然に涙が止まらなく・・・みつともないと思いい下を向きつつハンカチで涙を拭き拭き歩いてみると、知らない夫婦連れの人が「村井さんじゃないですか？」と急に声を掛けられ、小生もハンカチで涙を拭く拭く且つ声まで涙声・・・知らない人であり、私を知っているとするれば、クラスの者か、寮生しかおりません。

風貌から、同級生で寮にいた函館出身の「斉藤さん？」との問いに・・・俺だよ・・・、田原だよ！と言われ、

そう言えばチョット変わった奴で田原というのがいたな〜と思い、「仕事で札幌へそのついでに母校に寄った」旨伝え、彼も地元住吉中学校が廃校なるらしく、札幌から車で奥さんと一緒に中学校を見に来たついでに商業に寄ったとのこと。偶然であり・・・それ以来札幌に行くのと彼らと杯を重ねております。

30年ぶりに偶然母校で会った縁で札幌の仲間内、札幌尊商会総会への参加で大変彼も喜んでおりました。